

愛染堂

愛染堂は 1635 年に建てられた竹田市最古の木造建築物である。もともと大勝院という寺の一部でしたが、岡城が廃城となった後、城にあった願成院が 1874 年にこの丘の上に移転してきて、愛染堂が願成院の本堂となった。

当初は岡城の最も重要な寺であった願成寺の本堂であったが、岡城が取り壊された後、1874 年に現在の丘の上に移築された。

方形の建物は、江戸時代（1603-1867）初期の寺院建築の興味深い例である。特徴的なのは、張り出した宝形造の屋根で、複雑に組み合わされた木片で支えられている。屋根の四隅には顔が彫られ、その縁はジャキと呼ばれる小さな鬼のような生き物の彫刻で支えられている。

愛染堂の本尊である愛染明王は、恋愛、結婚、家庭円満を司ると信じられているため、このお堂は縁結びのスポットとして人気がある。

愛染堂の内壁は、死者を極楽浄土に導く天使のような「天女」など、仏教の天国を描いた壁画で飾られている。17 世紀に描かれた壁画はデリケートなため、一般公開は春と秋の年 2 回のみ。愛染堂は重要文化財に指定されている。